

# いもう 葦毛通信



平成 29 年 5 月 29 日  
豊橋市文化財センター  
豊橋市松葉町 3 丁目 1  
TEL : 0532-56-6060

## No. 51

### 1、2017モニタリング報告 - 1

タンザワ  
ウマノスズクサ

葦毛湿原では春の花が終わり夏の花が咲き始めました。今年は冬が長く、雨が少なかったので、春の花の開花がかなり遅れ気味です。

#### ハルリンドウ

ハルリンドウの開花は例年より 2～3 週間ほど遅く、5 月上旬まで咲いていました。開花数は、昨年 4 月 11 日には 6,476 輪で、一昨年の 3 倍以上になりました。今年は 4 月 19 日に 6,098 輪が開花し、最も開花数が多くなりました。最高開花数は昨年とほぼ同じでしたが、時期は 8 日遅くなっています。



ハルリンドウ (2017 年 4 月 14 日)

ハルリンドウは、太陽が昇ると開花し始め、午後 3 時頃には閉じ始め、夕方にはすべて閉じてしまいます。毎日、開花と閉花を繰り返し、曇った日にはあまり開花しません。満開のハルリンドウを見るには、4 月上旬～中旬の晴れた日の 12 時前後が良いようです。

#### ミカワバイケイソウ (愛知県絶滅危惧 I B 類)

ミカワバイケイソウは昨年が開花の当たり年で、401 輪が咲きました (葦毛通信 No. 37)。内訳は、国有林内が 318 輪、指定地内の三の沢



国有林内のミカワバイケイソウ (2017 年 4 月 25 日)

流域が 78 輪、その他が 5 輪です。今年は 138 輪で、内訳は国有林内が 52 輪、三の沢流域が 82 輪、その他が 4 輪でした。国有林内の開花数は約 1/6 に減少しましたが、指定地内の三の沢やその他の地点はほとんど変わりありません。これは、国有林内の群落がこれまで安定して継続していたのに対して、指定地内は大規模植生回復作業で木を伐ってから発芽した個体が多く、まだ十分に群落として安定していないためと考えられます。今後、三の沢の各地点の群落が成長して根に養分を十分に蓄積すれば、国有林内の群落のように多くの花を咲かせてくれるようになると予想しています。

### カザグルマ（愛知県絶滅危惧Ⅱ類）

カザグルマは開花数が今年顕著に増えました。昨年は葦毛湿原調査員が計測し、最終的に 81 輪でしたが、今年は 2 倍以上の 178 輪に増えました。大規模植生回復作業を行う前には 10 輪程度に減ってしまっていたことを考えると、順調に回復していることが分かります。これは、除草作業等の前に、カザグルマのツルを伐らないように黄色いビニールテープで印を付け、自生範囲を囲んで注意しながら保護してきたことが功を奏したと思われます。個体数も順調に増えており、今後も数多くの花を咲かせてくれると思います。



カザグルマ（2017年5月10日）

### 一の沢（G・S地点）

一の沢では、湿地周辺部のやや乾燥したところから、オオバノトンボソウが 10 株以上発芽し、花芽を伸ばしています（右写真）。これまでの暗い森の中では見られなかったものです。湿地中心部は、ヌマガヤ等が広い範囲で発芽し、その中からサワギキョウが数多く発芽してきました（下写真）。今年の秋には、多くの花を咲かせてくれると予想しています。

葦毛湿原では選択的に残した湿地性の木本であるクロミノニシゴリが満開を迎えようとしています。クロミノニシゴリを食草にしているシロシタホタルガの幼虫もあちこちで見ることができます。



オオバノトンボソウ（2017年5月26日）



一の沢湿地中心部（2017年5月10日）



サワギキョウ

## 2、平成 28 年度ナガバノイシモチソウの大規模植生回復作業

豊橋市指定天然記念物「ナガバノイシモチソウ自生地」では、葦毛湿原と同様に平成 24 年度から大規模植生回復作業を続けています。

これまでも南側の木を間伐して少しずつ日照を改善してきましたが、平成 28 年度は指定地北側（写真左）と東側（写真奥）の木を皆伐して日照を大きく改善しました。指定地には 5 本の散水用の水道栓があり、そのうちの 3 本でタイマーによる自動散水を行い、2 本は人手による散水を随時行ってきました。平成 28 年度には 5 本の水道すべてをタイマーによる自動散水にし、自生範囲すべてについて水分環境を整えることができたので、乾燥化の心配がなくなりました。そこで専門家の助言を元に東側と北側の木を伐って大きく日照を確保するようにしました。

大規模植生回復作業を行う前は、右写真上のように自生地部分に周囲から木が侵出し、セイタカアワダチソウ等の外来種やチガヤやササに覆われて、ナガバノイシモチソウが発芽できる環境が狭められていました。

2013 年 4 月から大規模植生回復作業を始め、木の伐採と外来種を中心とした除草を進めてきました。作業開始後 4 年目（右写真中）には、日照が改善し、侵出した植物の除去も進みました。写真中央手前は第 1 地点で、中央右側の黄緑色の部分にナガバノイシモチソウが集中して発芽しました。最終的に第 1 地点だけで 4,643 株が発芽しました。

しかし、まだ日照は十分でなく、特に写真奥の右側は一日の半分ほどが日陰になっていました。そこで、昨年は東側（写真奥）と北側（写真左）の木を皆伐し、日照を確保しました（右写真下）。これで東からの日照をさえぎるも



大規模植生回復作業前（西から：2010 年 7 月 28 日）



平成 28 年度作業前（西から：2016 年 8 月 14 日）



平成 28 年度作業後（西から：2017 年 5 月 20 日）

のが無くなり、日照は大きく改善しました。しかし、まだ南側の木（写真右側）が大きくなっており、午後の日照をさえぎっています。今年の作業は、南側の高木を伐って日照をさらに確保する予定です。

指定地の北側には広い道路が通り、東側には長三池から流れ出る川があります。北側の道路から見ても（下写真）、今年の作業で大きく日照が確保されたことが確認できます。



作業前（東から 2016 年 11 月 11 日）



作業後（東から 2017 年 5 月 26 日）

### 3、ナガバノイシモチソウ の発芽状況

ナガバノイシモチソウの発芽を 5 月 4 日に確認し、5 月 5 日には調査している第 1～8 地点すべてで、合計 59 株の発芽を確認しました。昨年は 4 月 16 日に最初の発芽を確認したので、今年は 20 日ほど遅くなっています。葦毛湿原と同様に、気温の低い期間が長く、雨が少なかったことが影響していると考えられます。成長速度も例年より遅くなっているようです。

右写真上はナガバノイシモチソウの発芽状態を拡大したものです。実際の大きさは 3 ミリ程しかありません。肉眼では確認しづらいので、現地では双眼鏡を使って観察しています。発芽はまず小さな双葉が出て、次に直交するように本葉が伸びて腺毛の先には粘液が玉のようになっています。こんなに小さくても、すでに虫を捕まえる準備ができています。例年、6 月末頃には開花しはじめますが、今年は少し遅くなるかもしれません。



ナガバノ発芽拡大（2017 年 5 月 3 日）



ナガバノ発芽状況（2017 年 5 月 5 日）